

防災の日 備え確認

「防災の日」の1日、県内では「防災給食」が南魚沼市の学校で提供されたり、県とスーパー大手のイトーヨーカ堂が災害時の物資供給協定を結んだりした。広島市の土砂災害の被災地に派遣されていた県警の警察官が戻り、現場での経験などを語った。



給食にアルファ米

南魚沼市の防災給食は子どものときから防災意識を高めてもらおうと中越地震から10年になるのに合わせた試みで、非常食のアルファ米が5400食用意された。この日、2日実施の学校を除き全小、中、総合支援学校であった。

市立五十沢中では生徒約90人が参加。アルファ米を食べるには水を加えて1時間待つ必要があることから、生徒たちは3時間目が終了した時点でアルファ米1袋の袋を開け、乾燥ワカメを入れてからミネラルウォーターを注いだ。

4時間目が終わって防災給食の時間。おかずや汁物も配られた。出来上がったご飯は1袋260gほど。

アルファ米をミネラルウォーターで戻したご飯をスプーンで食べる生徒たち。南魚沼市宮の市立五十沢中学校

スプーンで口に運んだ生徒たちからは「全然問題ないよ」との声が相次いだ。

防災給食の前には、東日本大震災で被災した宮城県石巻市の漁師阿部勝太さん(28)を招いた講演会や映像や資料で津波の恐ろしさを学ぶ授業があった。

1年生の井嶋郁也君(13)は「学校は山の中にあるけれど海に遊びに行くこともある。日頃から津波を含め災害に備える意識を持ちたい」と話した。

県とイトーヨーカ堂が結んだ協定は、災害救助物資の供給に関するもの。災害時、イトーヨーカ堂は県内4店舗などから食料や飲料水、日用品といった救助物資を県に提供する。すでに県とイオンとの間では同様の協定が結ばれており、県は業界大手2社との協定締結で、より安定して物資を確保できることになる。